

賑わい応援談⑨

「場」のもつパワーを守る

つなしま かすみ  
(大仙市 イラストレーター)

今年(2007年)2月、雪のある日のことです。新聞で三浦清志さんの切り絵展が催されているのを知った私は、さっそく電話をして時間のことや場所のことを聞き、大曲からやって来ました。すでに夕方でした。『関善』を初めて知ったのです。無数の梁が通る天井、違い障子、2階から庭の見える工夫、「これはすごい」と思いました。

熱心に切り絵を拝見していたせいか、「あなたも描く人でしょう」と見抜かれ、「それならここで何かやりませんか」と、8月の展示会の予定を入れていただき、さくさくと話が進んだのも、「この建物の中で出来るなら、それは素敵だ」と思った私の気持ちに嘘がなかったからでしょう。こうして私もまた、『関善』のかもしだす雰囲気にもせられた一人となりました。

こうして今迄より足しげく鹿角花輪に通うようになってみると、ここは本当におもしろいところです。来ればまず『関善』に荷物をおろし、そこを拠点に「ではっ、ちょっと回ってきますっ」とスケッチブック片手にその辺をうろうろする、いい加減な個展開催者ではありましたが、この地で出会う、人に、風物に、すっかり魅せられてしまったのです。

ここには、ほかの地よりもはるかにわかりやすいビュアなかたちで、古いもの、伝統、脈々と受け継がれてきた有形無形のものがあり、その中に人間の暮らしがある。現在の人間の暮らしはいうまでもなくリアルタイムで、留まることなく流れています。その中で、どうして人間って、伝統を守るのでしょうか。

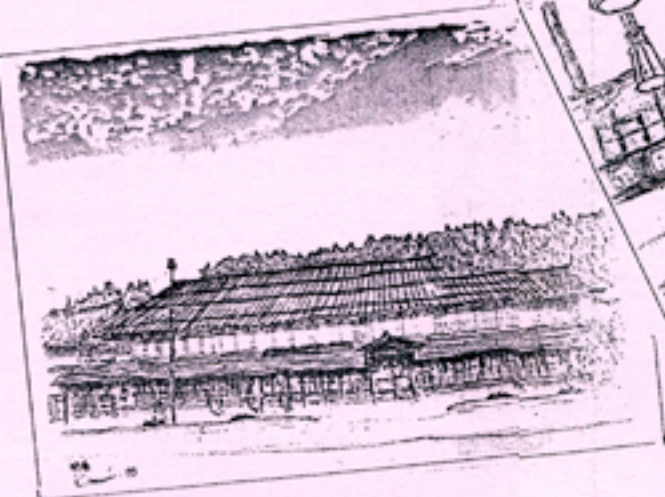
あるとき聞いたことなのですが、それが「場」のもつパワーを守ることなのだそうです。そしてまた、伝統とは今の人・後の人に好かれ伝えられてこそ「伝」統なのであって、少しずつ姿を変えていくことを恐れずにどんどん後につなげていくものですよ、と。

『関善』の建物を見るとき、そしてそれを含む鹿角花輪の町を見回すとき、まさにそのための努力が日々行われているのを感じます。

パワースポットであり続けるために、一人ひとりの人間ができることはほんのちょっとしたことであっても、それが積み重なり大きなうねりとなって「場」の力を守り、地力を守っていることを、美しいと思うのです。

関善おみやげコーナー

品揃え充実



# 大権現舞やさんさ踊り

国登録有形文化財  
1周年をアピール



119. 11. 25 北鹿新聞

## 旧関善で民俗芸能フェスタ

鹿角市の旧関善酒店が「獅子大権現舞」と盛岡さんさ踊りの一行がフェスタを盛り上げた。旧関善は1856(安政3年)創業の造り酒屋。現在の千原は1905(明治38年)年の大火で全焼し、同年再建された。木造平屋一部を附設。鉄板葺きの切り妻

12月に登録記念フェスタが伝達された。フェスタでは大権現舞の松館天満宮舞楽保存会の一行が、花輪市日の中を通過して旧関善に到着。待ちかまえていた大勢の観客を前に、獅子が曲を打ち鳴らしながら舞い回り、学業成就、無病息災を祈願した。大権現舞が関善で披露されたのは今回が初めて。



【この1冊】

『あきた食物考』

無明舎出版

あんばい こう 著

くあきたこまちはスーパースターのイチローによく似ている。秋田県はマリナーズだ。スーパースターは期待通り活躍をするがチームは低迷。スーパースターに依存することで、チーム(県)全体の強化、補強を怠ってしまった・・・>

(こ)

つなしま かすみさんのイラストレーターはがき販売中!